

『シン・ウルトラマン』

2022年/日本/樋口真嗣監督作品

シン・ウルトラマンと私

会員 寺崎 裕史 (61期)



シン・ウルトラマン DVD2 枚組
4月12日発売
4,180円
発売元:円谷プロダクション
販売元:東宝
©2022「シン・ウルトラマン」製作委員会
©円谷プロ

本作は、巨大不明生物たる「禍威獣（カイジウ）」の存在が日常となった日本において、禍威獣対策のスペシャリストである禍威獣特設対策専従班（禍特対）のメンバーと、銀色の異星人であるウルトラマンが織りなす浪漫と友情の物語である。

M78星雲の「光の国」からやって来たウルトラマンは、科学特捜隊のハヤタ隊員と一心同体となり、宇宙忍者バルタン星人を含む多数のウルトラ怪獣達と戦い、地球を守った。

これに対して、「光の星」からやって来た本作のウルトラマンは、禍特対メンバーの神永新二と一心同体となり、5体の禍威獣との死闘を繰り広げていく。

ウルトラマンと各禍威獣の闘いはいずれも極めて重要であるが、本稿では、特に私の心に残った2体の禍威獣について、詳述することとしたい。

ウルトラマンが2体目に対峙した禍威獣であるガボラは、ドリル状の頭部を猛烈に回転させることにより、その対象を完全に破壊し尽くすことができる。

その一方、ガボラはウランを主食とし、体内に大量の放射性物質を含むため、ウルトラマンとしては、ガボラにスペシウム光線を射出してこれを爆散させた場合、周囲に放射性物質が撒き散らされ、人々の生活に悪影響が生じる危険があった。

かかる強敵に対し、ウルトラマンは、凄まじい勢いで高速回転するドリルを素手で抑え込んだ上、放射性物質がふんだんに含まれたガボラの恐るべき光線を身を挺して受け止め、その脅威の前に立ち尽くす禍特対メンバーを、絶体絶命の危機から救った。

結局、ウルトラマンは、ガボラの目の前まで接近してその顔面を真正面から手拳で殴打し、その場に崩れ落ち

たガボラを両手で持ち上げ、その場からどこか遠いところに飛び去った。そこには、言葉を一切語らないウルトラマンと人類の間の温かな友情が確かに存在しており、私はまずここで泣いた。

その後、ウルトラマンは、知略を巡らせて地球と人類を我がものにしようとする禍威獣2体を辛くも撃退する。

しかし、そこに立ち上がった最大にして最凶の存在こそ、「天体制圧用最終兵器」であるゼットンであった。

ゼットンが放つ熱球は、1テラケルビン（1兆度）の超高熱であり、それが一度放たれば、この地球はどうか、ウルトラマンも当然無事では済まない。

禍特対メンバーを含む全ての人類は、ゼットンの圧倒的破壊能力の前に皆絶望し、一様に打ちひしがれることとなる。

だが、ウルトラマンは、そうではなかった。

ウルトラマンは、この地球の全ての人類のため、自らの生命を懸けて、ゼットンに立ち向かうことを決意する。

その彼の優しさと、彼が人類と紡いだ友情が、1兆度という想像を絶する超高熱球の前に、一つの奇跡を起こすことになるが、ここでも私は泣いた。

アマゾンプライム会員であった私は、無料配信された本作を自宅で視聴したが、次々と繰り広げられる一大スペクタクルを目の当たりにして、多大な衝撃を受けた。

ショックのあまり、本作に登場する光の星からのもう1人の使者（金色）のソフビ人形も購入した。

日々困難な事案との格闘を続け、基本的人権の擁護のため、終わりのなき闘いを繰り広げておられる会員諸氏には、是非本作をご覧頂きたい。